



## 今週のPOINT

### 国内株式市場

TOPIXは年初来高値を一時更新、金融株の上昇続くか

### 今週の分析銘柄 - FISCO Selection 8 -

スマートドライブ【グロース 5137】ほか

### テーマ別分析

ファッション・アパレル関連は選別物色に

### 話題のレポート

アナリスト予想の修正が大きい銘柄

### スクリーニング分析

年初から株価の水準訂正が進み、かつ目先の調整一巡感も意識される銘柄

全般的に方向感の定めにくい状況が続く

1	今週の市場見通し	国内株式市場	マーケット概観	3	
			新興市場	4	
		米国株式市場		5	
		為替市場	米ドル/円予想レンジ	6	
		債券市場	債券先物・長期国債利回り予想レンジ	6	
2	マーケットを読む	今週のポイント		7	
		日経平均株価		8	
3	今週の分析銘柄	FISCO Selection	スマートドライブ 〈5137〉 グロース	9	
			ブラザー工業 〈6448〉 プライム	10	
			メイコー 〈6787〉 プライム	11	
			アンビスホールディングス 〈7071〉 プライム	12	
			住信SBIネット銀行 〈7163〉 スタンダード	13	
			AeroEdge 〈7409〉 グロース	14	
			アシックス 〈7936〉 プライム	15	
			伊藤忠商事 〈8001〉 プライム	16	
			読者の気になる銘柄	アドバンテスト 〈6857〉 プライム	17
				藤田観光 〈9722〉 プライム	17
			テクニカル妙味銘柄	渋沢倉庫 〈9304〉 プライム	18
				ゆうちょ銀行 〈7182〉 プライム	18
4	カテゴリー考察	テーマ別分析		19	
		スクリーニング分析		20	
		先週の話題レポート		21	
		信用需給動向		22	
5	連載コラム			23	

## TOPIX は年初来高値を一時更新、金融株の上昇続くか

### ■長期金利上昇で金融株が買われる展開に

先週の日経平均は週間で986.61円高(+2.56%)の39583.08円と上昇。プライム市場の売買代金はさほど増加していないが、先物主導の相場展開のなか、日経平均は5月、6月の戻り高値を上回り、4月以来となる39700円台まで上昇。TOPIXは年初来高値を一時更新する場面も見られた。

日本株を積極的に売買する手掛かり材料は観測されていないが、為替は1ドル161円台と4月29日につけた160円10銭台を上回る水準まで円安ドル高が進行したことで自動車株など海外売上高比率が高い銘柄がしっかり。長期金利の指標となる新発10年国債利回りが一時1.085%まで上昇したことなどが影響し金融株も上昇したことから、日経平均は足元の上値抵抗水準だった39300円水準を突破。レンジ上限を上回ったことで、先物の買戻しなども膨らみ日経平均は上げ幅を広げたとの観測。週末にかけては上値が重くなったものの、時価総額が大きい銘柄が買われたことで、TOPIXは3月22日の取引時間中の年初来高値2820.45ポイントを一時上回った。

なお、6月第3週の投資主体別売買動向によると、外国人投資家は現物を185億円売り越したほか、TOPIX先物を3158億円売り越し、225先物は3049億円売り越したことから、合計6392億円の売り越しとなった。一方、個人投資家は現物を1910億円買い越すなど合計で868億円買い越し。なお、信託は現物を1918億円売り越した。

### ■TOPIX が年初来高値を一時更新

6月28日の米国株式市場は反落。ダウ平均は前日比45.20ドル安(-0.12%)の39118.86、ナスダック指数は126.08ポイント安(-0.71%)の17732.60、S&P500は22.39ポイント安(-0.41%)の5460.48で取引を終了した。大証ナイト・セッションの日経225先物は、通常取引終値比200円高の39820円で取引を終えた。

先週末のプライム市場売買代金ランキングでは、三菱UFJ<8306>がトップとなるなど金融株の活発な商いが目立った。長期金利上昇によって時価総額が大きい銀行株、保険株、証券株などが買われた一方、金利上昇デメリットセクターの代表である不動産株はしっかりだったことから、7月末に開催される日本銀行の金融政策決定会合を見越した「日銀トレード」は入っていないと思われる。先週のプライム市場は売買代金がさほど膨らんでいない状況下、TOPIXコア30銘柄が総じて買われる地合いとなった。売買代金がさほど増加していないなか、幅広い業種・銘柄が買われる地合いは今年1月中旬ごろとよく似ている。今年1月の上昇時は、外国人投資家が圧倒的な買いの主体として存在していた。先週の金融株上昇などの買い

の主体はよくわかっていないが、足元静かだった外国人投資家が買いを入れたとすれば、日経平均やTOPIXはもう一段上を意識した地合いも期待できよう。

### ■介入警戒感高まるが実施しにくいとの見方も

為替は1ドル161円台まで円安ドル高が進行しており、神田財務官、鈴木財務大臣は口先介入の回数を増やしているが、効果は限定的。市場では「口先介入に終始しており、現時点の円安のスピード感では為替介入は実施しにくい」との見方も聞かれる。神田財務官が今年3月に「2週間という期間でドル円について4%の変動はなだらかなものとは到底言えない」と発言していることから、「2週間で4%の円安ドル高」が確認できなければ政府・日本銀行は円買いドル売り介入を実施できないと見られている。このルールに当てはめると、2週間前の為替は1ドル157円前後で推移していたことから、為替介入を実施するには163円水準が必要という計算となる。

また、米財務省が、日本を為替操作国の監視リストに入れたことで、政府・日銀は介入をしにくくなったとの見方もある。ほかにも為替介入の陣頭指揮を執っていた神田財務官が交代することなども思惑材料となっているようだ。

もともと、為替介入実施の明確なルールは政府・日銀関係者以外誰も知らないの、警戒感が高いままだ。前回介入が実施された4-5月時、ドル円は4月29日の160円10銭水準から5月3日には151円90銭水準と8円強円高ドル安に振れたことから、仮に為替介入が実施された際、海外売上高比率が高い銘柄にとっては格好の売り材料となる。

### ■5日に米雇用統計発表

今週は、日本では、7月1日に日銀短観(6月調査)、6月消費者態度指数、2日に6月マネタリーベース、5日に5月景気動向指数(速報値)などが予定されている。

海外では、7月1日に中・6月財新製造業購買担当者景気指数(PMI)、トルコ・6月製造業PMI、独・6月消費者物価指数(CPI、速報)、米・6月PMI(改定値)、ISM製造業景気指数、2日に欧・6月ユーロ圏CPI(速報値)、5月ユーロ圏失業率、米・5月JOLTS求人件数、3日に豪・5月小売売上高、中・6月財新サービス業/総合PMI、米・6月ADP雇用者数、週次新規失業保険申請件数、5月貿易収支、6月サービス業/総合PMI(改定値)、5月製造業新規受注、耐久財受注(確報値)、6月ISM非製造業景気指数、週次原油在庫、6月連邦公開市場委員会(FOMC)議事録、5日に米・6月雇用統計などが予定されている。

## グロース 250 指数は 75 日線の攻防、引き続きバイオ関連が物色の柱に

### ■75日移動平均線突破を試す展開

今週の新興市場は、ここまでの反発に対する利益確定売りが先行しそうだが、投資家マインドの改善を背景にしっかりの展開を想定する。グロース市場250指数は75日移動平均線突破を試す展開を迎えている。6月27日は4月1日以来となる終値ベースで75日移動平均線を上回ったが、週末、この水準を割り込んだ。25日移動平均線がしっかりと上向きに転じていることから、今週は一段上の200日移動平均線が位置する690ポイントを狙いところだ。

### ■物色の柱はバイオ関連、IPOは1社

物色の柱となるのは、6月中旬以降、投資家の関心を集めているサンバイオ<4592>やクオリプス<4894>などバイオ関連だろう。週末にラクオリア創薬<4579>が急落するなど、バイオ関連は乱高下しやすいが引き続き関心は高い。今週は7月2日に、独自の創薬基盤を用いた新規医薬品の開発などを手掛けるPRISM BioLab<206A>がグロース市場に上場することから、バイオ関連の刺激材料となろう。ここ最近の新規株式公開（IPO）は、PostPrime<198A>のように初値が伸びなくても、初値形成後に強い動きを見せるケースが多いのでセカンダリーにも注目したい。

また、時価総額の大きい銘柄では、インテグラル<5842>が新値追いの強い動きを見せていることで注目するほか、GENDA<9166>も上場来高値（1995円、分割考慮後）を捉えてくと需給面を材料視した買いが期待できよう。

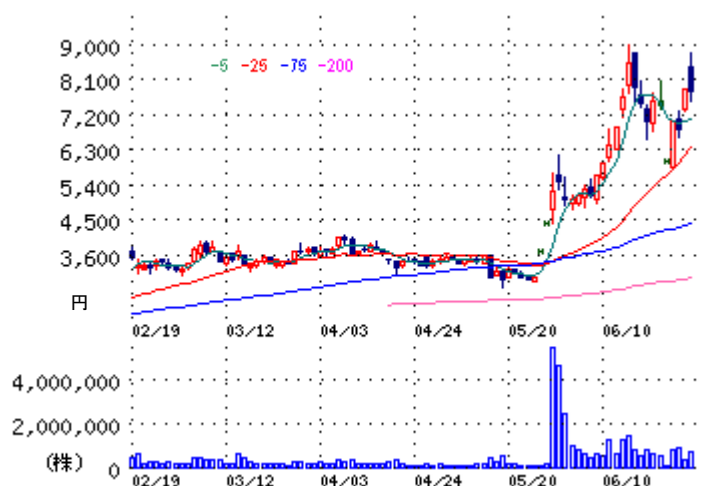
東証グロース市場 250 指数



サンバイオ<4592>



クオリプス<4894>



## 雇用統計待ちでもみ合いか、トランプラリーには注目/米国株式相場 今週の見通し

### ■先週の動き

先週の米国株はまちまち。週間ベースの騰落率は、NY ダウが-0.08%、ナスダックは+0.24%、S&P500は-0.08%。ナスダックは史上初めて18000ポイント台に乗せる場面も見られたが、半導体大手エヌビディアがほぼ横ばい推移と方向感に乏しかったことなどから、米国株全体も推進力不足で横ばいとなった。連邦準備制度理事会（FRB）が重視するPCEデフレーターを発表を週末に控え、様子見ムードが強い地合いが継続。週半ばには、アマゾンが時価総額で初めて2兆ドルを突破し、4社目の2兆ドル超え達成となったが、市場全体の地合いは変わらず。注目の5月PCEデフレーター（コア）は、前月比0.1%上昇と2020年11月以来の低い伸びにとどまった。また、前年同月比でも2.6%の上昇と前月から鈍化。市場予想通りだったが、2021年3月以来の小幅な伸びとなったことで、インフレ再加速への懸念が後退。FRBによる利下げ観測が強まり相場を支えたが、NYダウは決算が失望されたスポーツ用品メーカーのナイキの急落が重しとなった。

個別では、光通信機器メーカーのインフィネラは、フィンランドのノキアが買収することで合意したと発表し急伸。シティグループや、JPモルガン・チェースなど銀行株は、ストレステスト通過を受け、株主還元策への期待から買われた。ペット用品を手掛けるチュイーと同業のペトコ・ヘルス・アンド・ウェルネスは、「ロアリング・キティ」として知られる投資家キース・ギル氏がXに犬のイラスト画像を投稿したことに反応したことで急騰した。ギル氏は21年にゲームストップ株の急騰を引き起こし、ミーム株ブームの仕掛人とされていることで思惑先行の地合いとなった。

四半期決算を発表した半導体のマイクロン・テクノロジーは、6-8月の売上高見通しが市場予想に届かず下落。衣料品メーカーのリーバイ・ストラウスは、増収となったが市場予想は下回り急落した。ドラッグストアチェーンのウォルグリーン・ブーツ・アライアンスは、小売環境の悪化を理由に通期の利益見通しを下方修正し、大規模な店舗閉鎖計画も発表したことで急落。金融のゴールドマン・サックスは、FRBによるストレステストの結果、他社よりも普通株式等ティア1（CET1）比率が低い水準に低下するとされて下落。ナイキは、四半期決算が市場予想を下回ったほか、25年通期の減収見通しを示し大幅安となった。くら寿司USAは、市場予想を下回る売上高見通しを示したことで売られた。

### ■今週の見通し

今週の米国株は、雇用関連や購買担当者景気指数（PMI）など様々な経済指標が発表されることで引き続き様子見ムードが強まり、主要3指数は高値圏でもみ合いが続くと考える。雇用関連はFRBが金融政策を決めるデータで重要視する経済指標であるため、週末の雇用統計発表まで動きにくいだろう。6月に発表された5月雇用統計は予想を上振れた。その後発表された連邦公開市場委員会（FOMC）でのドットチャートは、2024年利下げ見通しを3月時点の3回から1回に修正したことで、市場では雇用統計上振れがドットチャート修正に大きな影響を与えたと見られている。先週末のPCEデフレーター同様、今週末も重要な経済指標発表を控えていることで先週同様、方向感に乏しい地合いとなりそうだ。一方、ナスダックは一時18000ポイントに乗せるなど、強い動きは健在だ。影響力が大きいエヌビディアは、6月18日株式分割後の高値135.58ドルを付けた後は2週間ほど調整を迎えている。その間、アップル、アマゾンが指数を押し上げるなど時価総額が大きい銘柄間での循環物色は続いていることから、投資家心理は良好を維持していると考える。なお、先週末に開催されたバイデン大統領とトランプ前大統領のテレビ討論会では、バイデン氏のパフォーマンスがさえないことから、トランプ氏返り咲きを意識した「トランプラリー」が入る可能性はある。既に民間の刑務所運営会社やクレジットカード、医療保険、石油などの銘柄がやや動意付いていることから注目のしたい。一方、一般消費財や再生可能エネルギー関連などバイデン政権の恩恵を享受してきた銘柄は上値が重くなる可能性もある。

経済指標では、7月1日に6月製造業PMI（改定値）、ISM製造業景気指数、2日に5月JOLTS求人件数、3日に6月ADP雇用者数、週次新規失業保険申請件数、5月貿易収支、6月サービス業/総合PMI（改定値）、5月製造業新規受注、耐久財受注（確報値）、6月ISM非製造業景気指数、週次原油在庫、6月FOMC議事録、5日に6月雇用統計などが予定されている。

主要企業決算は、2日に3Dシステムズ、3日にコンステレーション・ブランド、5日にサンパワーなどが予定されている。



## 為替市場

米ドル・円 予想レンジ

159.00 円 ~ 162.50 円

今週のドル・円は伸び悩みか。米国財務省が公表した為替報告で為替操作国の監視リストに日本が加えられたが、1ドル=161円を超える水準で為替介入が実施される可能性は残されている。6月30日投開票のフランス議会選で右派勢力が躍進すれば、7月7日の決戦投票に向けリスク回避のユーロ売り・円買いが強まる可能性があることも短期的なドル・円の相場動向に影響を与えそうだ。7月5日発表の6月米雇用統計で賃金上昇圧力は多少弱まると予想されていること、円安進行を受けて日本銀行は次回7月開催の金融政策決定会合で追加利上げを検討する可能性があることもドル高を抑制する一因となり得る。

## 【米・6月ISM製造業景況指数】(7月1日発表予定)

7月1日発表の6月ISM製造業景況指数は49.0と、節目の50を下回る見通し。ただ、前月の48.7から改善が期待され、市場予想を上回った場合、引き締めの政策を後押しする材料になる。

## 【米・6月雇用統計】(7月5日発表予定)

7月5日発表の米6月雇用統計では失業率は4.0%、非農業部門雇用者数は前月比+18.5万人の市場観測。賃金上昇圧力が低下すればドル売り要因に。

## 債券市場

債券先物予想レンジ

142.20 円 ~ 143.00 円

長期国債利回り予想レンジ

1.035 % ~ 1.095 %

## ■先週の動き

先週(6月24日-28日)の債券市場で長期債利回りは強含み。6月27日の取引では長期金利は1カ月ぶりの水準に上昇した。米国市場で長期金利が上昇した上、為替市場での円安加速で日本銀行が早期の追加利上げに踏み切ることへの警戒感が高まった。ただ、28日の取引では日本銀行の定例の買い入れオペが需給の改善を示したことで長期債などの気配はおおむね持ち直した。日銀は28日午前の金融調節で定例の国債買い入れオペを通知。対象となる全年限の買い入れ額を前回オペから据え置いた。オペ結果では全ての年限で応札倍率が前回から低下し、市場で売り圧力の弱まりを示した。

10年債利回りは0.992%近辺で取引を開始し、一時0.991%近辺まで低下したが、為替相場の円安進行を受けて日本銀行による追加利上げの時期は早まるとの見方が浮上し、利回りは反転。28日の取引で一時1.090%近辺まで上昇し、1.057%近辺でこの週の取引を終えた。

債券先物9月限は弱含み。143円47銭で取引を開始し、一時143円62銭まで買われたが、円安進行や株高が嫌気され、利食い売り

が広がった。6月28日の取引で142円49銭まで下げたが、この日行われた国債買い入れオペで全年限の買い入れ額は前回オペから据え置かれており、この措置を好感した買いが入った。債券先物の下げ幅は縮小し、142円86銭でこの週の取引を終えた。

## ■今週の見通し

今週(7月1日-5日)の債券市場では長期金利がやや上昇する可能性がある。日本銀行が月末の金融政策決定会合で国債買い入れの減額に加え追加利上げに踏み切ることへの投資家の警戒感が強い。金利先高観が強く、7月2日と4日に行われる10年国債と30年国債の入札については強い需要は見込みにくいとの声が聞かれている。まずまず無難な結果となった場合でもセカンダリー市場でしっかりとした需要が見込める保証はないとみられる。

債券先物9月限は伸び悩みか。日銀による国債買い入れ額が大幅に減少すると見方は少ないものの、10年国債と30年国債の入札状況が期待を下回った場合、需給面では債券先物の上昇は抑制されそうだ。為替相場の円安進行も警戒され、債券先物は143円近辺で上げ渋る可能性がある。

## 国内外の政局動向や金融政策見極めの必要性強く方向感定めにくい

先週の日経平均は上昇。為替相場の円安進行などが支えとなって週初から買いが先行した。国内長期金利の上昇を背景に保険や銀行などの金融関連が大きく上昇し、週末には TOPIX が一時年初来高値を更新している。37 年半ぶりの円安水準更新を受けて自動車株などもしっかり。半導体関連も、前半の米エヌビディア続落、マイクロンの売上高見通しなどマイナス視される場面があったものの、週を通してみると堅調推移となっている。

個別ではティーガイアが急伸、筆頭株主の住友商事保有株に対する関心が高まり、再編思惑などにつながる形となったもよう。IHI は特に材料が表面化していないものの、防衛関連の出遅れなどとして見直しの動きが強まった印象。東邦 HD は 3D インベストメントが大株主に浮上したことが材料視され、サワイグループは高水準の自社株買い発表が好感される。国内での人員削減を実施検討と伝わった住友ファーマには買い戻しの動きなど優勢に。アドバンテストは中期計画に評価が高まり、半導体関連の中で底堅い動き目立つ。堀場製作所も IR Day 開催を受けて評価が高まった。ビジョンは業績・配当予想を上方修正、エイベックスは純利益予想を上方修正している。半面、KADOKAWA はサイバー攻撃の影響を懸念する見方が引き続き優勢。くら寿司は米子会社の暫定決算の内容が嫌気される。架空買い取り疑惑などで特別調査委員会を設置のブックオフにも売りが集まり、ふるさと納税の制度変更がネガティブと捉えられてアイモバイルも一時連日の株価下落に。

国内外の政局動向や金融政策の行方を見極めたいとして、今週は方向感の乏しい相場展開になるとみられる。6 月 30 日、7 月 7 日に行われるフランスの下院総選挙では、極右政党の国民連合が政権を握る可能性が高いとみられている。財政拡張によるフランス国債利回りの上昇の程度が気にかかる。一方、米国の大統領選では、先週の討論会でトランプ候補が圧勝の状況となった。当面はトランプ大統領の復活を見据えた相場展開、物色の流れが想定されよう。国内でもエネルギー関連銘柄などの刺激になってくる可能性がある。一方、フランスや米国の状況を見る限り、EV を含めた環境関連銘柄には逆風が強まりそうだ。

今週は米国で雇用統計が発表される。先月の雇用統計を受けて、年内利下げ回数見通しが下方修正されていることで、今月の状況にも警戒感が先行しよう。こうした警戒感是一段のドル高円安につながりやすく、日銀のタカ派姿勢を強めることにつながる。金融関連株には思惑買いの動きが継続しそうだ。今週の国内決算発表では、ネクステージ、霞が関キャピタル、ABC マート、安川電機などが予定されている。とりわけ、安川電機は FA 関連、中国関連銘柄の先行きを占うものとなってこよう。週初には 6 月の日銀短観が発表予定で、企業の設備投資計画などに関心に向かう余地もある。なお、来週は ETF 分配金抛出のための先物売りが発生すると見込まれており、米独立記念日や雇用統計を控える週後半に向けては、より買い手控えムードが強まりそうだ。

### 先週動いた銘柄・セクター（東証プライム）

上昇率上位銘柄				下落率上位銘柄				業種別騰落率	
コード	銘柄	終値 (円)	騰落率 (%)	コード	銘柄	終値 (円)	騰落率 (%)	上位セクター	騰落率 (%)
3738	ティーガイア	3,050.0	55.22	7034	プロレド・パートナーズ	617.0	-14.42	保険業	8.53
7013	I H I	4,805.0	19.53	9468	KADOKAWA	2,579.5	-13.64	銀行業	7.95
7388	F P パートナー	2,925.0	18.90	7874	レック	1,221.0	-10.55	輸送用機器	4.83
6740	ジャパンディスプレイ	19.0	18.75	2695	くら寿司	4,045.0	-9.41	医薬品	3.95
2326	デジタルアーツ	4,510.0	16.84	9278	ブックオフグループホールディングス	1,412.0	-8.73	証券業	3.88
4506	住友ファーマ	405.0	15.06	5698	エンビプロ・ホールディングス	479.0	-8.59	卸売業	3.08
8129	東邦ホールディングス	4,204.0	14.68	3865	北越コーポレーション	1,058.0	-8.32	電気機器	2.93
4887	サワイグループホールディングス	6,537.0	14.08	3154	メディアスホールディングス	905.0	-8.31	下位セクター	騰落率 (%)
6951	日本電子	7,268.0	14.06	4967	小林製薬	5,223.0	-6.88	ゴム製品	-1.04
7860	エイベックス	1,364.0	13.48	9509	北海道電力	1,194.0	-6.86	非鉄金属	0.01
4275	カーリットホールディングス	1,447.0	13.40	6785	鈴木	1,415.0	-6.72	食料品	0.37
8725	MS & AD インシュアランスグループホールディ	3,575.0	13.31	8614	東洋証券	356.0	-6.56	電力・ガス業	0.59
6779	日本電波工業	1,439.0	13.22	4922	コーセー	10,235.0	-5.97	金属製品	0.79
3817	S R A ホールディングス	4,440.0	12.26	6535	アイモバイル	491.0	-5.94	空運業	0.92
8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,729.0	11.76	6364	北越工業	2,388.0	-5.91	ガラス・土石製品	0.98

## 上値試す、75日線突破で地合い好転

### ■各移動平均線はいずれも上向きで上昇トレンド継続を示唆

先週（6月24-28日）の日経平均株価は2週ぶりに上昇した。1週間の上げ幅は986.61円（前週218.09円安）だった。

東証と大阪取引所の投資部門別売買状況では、現物・先物合算で海外投資家は6月3週（6月17日-21日）、売り越しに転じ（6392億円、前週は482億円の買い越し）、現物は売り越しを継続した（185億円、前週は2694億円）。

先週の日経平均は週初24日に終値が25日移動平均線を突破し、地合いの好転を示唆。翌25日は直近の抵抗ゾーンを形成してきた75日線を上回り、26日には39788.63円と節目の40000円近くまで上ヒゲを伸ばした。

今週は上値を試す展開が予想される。5日、25日、75日の各移動平均線はいずれも上向きで先週末を迎えて上昇トレンド継続を示唆している。25日線との乖離率は2.01%と過熱ラインの5%には余裕を残している。25日線は75日線の121.73円下まで距離を詰めてきた。25日・75日線のゴールデングロス形成となれば、中長期ベースの上昇基調開始が強く意識されることとなる。

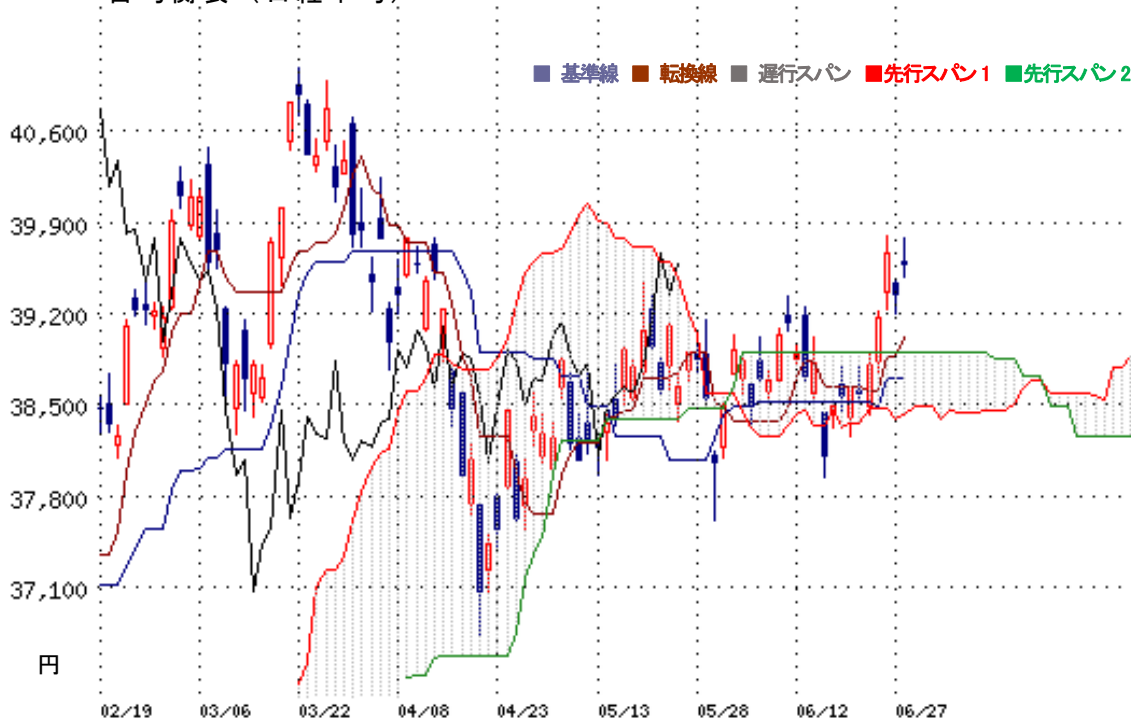
先週末終値が25日線を上回る銘柄は日経平均採用225銘柄のうち132銘柄（先々週末6月21日は67銘柄）と過半数を占め、東証プライム全上場銘柄でも73%（同56%）と増加。相場全体では短中期投資家の買い余力が増したとみられ、地合いは強気に傾きそうだ。

ボリンジャーバンドでは、26日に終値が+2σを突破して上値拡張局面入りを示唆。先週末終値も+2σを上回り、上値追いの継続が期待できよう。1σの値幅は384.57円（先々週273.85円）から拡大。-2σから+2σまでの各線が互いに距離を広げる「5本線発散」を開始し、株価の上放れを示唆している。

東証プライム市場の騰落レシオ（25日ベース）は中立ゾーンの90-110%での推移が2カ月を超えたが、26日に中立ゾーンを脱して週末28日は115.72%。騰落レシオは周期性を示すとされ、今後は騰落レシオの上昇とともに相場が一旦過熱感を増す展開が予想される。

上値では、節目の40000円が抵抗線として意識され、40000円クリアに成功すれば3月22日の史上最高値41087.75円を試す流れとなろう。下値ではこれまで抵抗帯を形成してきた75日線（38922.98円）前後が強力な支持帯として作用しよう。

一目均衡表（日経平均）





## スマートドライブ 〈5137〉 グロース

### 物流業界の 2024 年問題も追い風、取締役は業績条件型報酬

#### ■自社開発のサービスを顧客へ直接提供

車両データを活用したソリューションを提供。主力となる国内フリートオペレーター(FO)事業では、国内に約200万台ある商用車を利用する企業に向けた事業であり、SaaS型での直接提供により業務の効率化を行う。法人向けクラウド型車両管理システム「SmartDrive Fleet」は2016年9月にリリース。安全運転管理者に必要な日報など法的必要書類のDX化にも対応していることから、いわゆる「物流業界の2024年問題」も同社事業の追い風になるとみられている。

#### ■今期は増収・営業黒字転換見込み

24年9月期は売上高22.34億円(前期比30.7%増)、営業利益1.70億円(前期は0.09億円の損失)と増収・営業黒字転換見込み。なお、4月に営業利益以下を期初計画から上方修正している。また、同社では取締役の株式報酬における業績条件を設定

売買単位	100 株
6/28 終値	2050 円
目標株価	2300 円
業種	情報・通信業

しており、24年9月期は売上高25億円、営業利益2億円と公表されている。条件達成に向けさらなる業績予想上方修正の可能性はあろう。28年9月期には売上高100億円、営業利益20億円という条件設定も公表されており、中長期的にも成長期待は大きい。まずは年初来高値圏となる2300円を目標株価とする。

#### ★リスク要因

顧客企業のDX意欲後退など。

5137:日足

25日線につづき、75日線も上向き転換。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2020/9連	398	108.4%	-799	-755	-	-763	-
2021/9連	827	107.8%	-362	-321	-	-327	-
2022/9連	1,254	51.6%	-319	-302	-	-303	-
2023/9連	1,709	36.3%	-9	-26	-	-28	-
2024/9連予	2,234	30.7%	170	166	-	163	26.19

## ブラザー工業〈6448〉プライム

### 今期営業利益は76.7%増予想、株主還元も積極化

#### ■プリンターや工作機械など手掛ける

24年3月期はプリンター・複合機などのプリンティング・アンド・ソリューションズ(P&S)事業が売上収益全体の63%を占め、工作機械や工業用ミシンのマシナリー事業が9%、ペットボトルや缶などに印字するコーディング・マーキング機器のドミノ事業が13%、家庭用マシンなどパーソナル・アンド・ホーム事業が6%などとなっている。地域別では米州が34%、欧州28%、アジア他24%、日本14%。24年3月期業績について、売上収益は8229.30億円(前期比0.9%増)、営業利益は497.92億円(同10.1%減)で着地。ドミノ事業でのれんの一部の減損損失を計上したことなどから営業減益となった。

#### ■追加的な株主還元も検討へ

25年3月期は売上収益8800億円(前期比6.9%増)、営業利益880億円(同76.7%増)を見込む。P&S事業の収益性維持に加

売買単位	100 株
6/28 終値	2831.0 円
目標株価	4000 円
業種	電気機器

え、産業用領域では設備投資需要の回復を捉えることでマシナリー事業を中心に成長を目指す。年間配当は前期比16円増配の100円を計画。業績の状況等に応じて追加的な株主還元を検討し、自己株式の取得は機動的な実施を基本方針としている。やや中期的だが次の大台となる4000円を目標としたい。

#### ★リスク要因

金利上昇による産業界の設備投資意欲の減退など。

#### 6448:日足

4月以降は2700円台が下値支持帯に。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2021/3連I	631,812	-0.9%	42,731	42,944	-35.9%	24,520	94.36
2022/3連I	710,938	12.5%	85,501	86,429	101.3%	61,030	234.89
2023/3連I	815,269	14.7%	55,378	56,953	-34.1%	39,082	152.67
2024/3連I	822,930	0.9%	49,792	52,523	-7.8%	31,645	123.81
2025/3連I予	880,000	6.9%	88,000	88,000	67.5%	63,000	246.48

## メイコー〈6787〉プライム

## プリント基板とEMS事業を展開、車載需要の回復が追い風

## ■車載向けプリント基板が主力

プリント基板の設計・製造と、商品企画から設計・部品調達・実装・組立・検査・物流までを一括で請け負うEMS事業(電子機器の受託製造)を行う。プリント基板は、スマートフォン向けの高密度・高機能なプリント基板や、高周波対応、自動車のエンジンルームや太陽光発電装置など苛酷な環境に耐える高放熱・大電流基板など、多様なニーズに対応する。売上構成は、24年3月期で車載が53%、スマートフォン・タブレットが15%、AI家電・アミューズメント・産機他が10%、EMS・電子機器開発製造17%などとなっている。

## ■営業利益は前期比21.8%増・今期37.2%増予想

24年3月期は、売上高1794.58億円(前期比7.3%増)、営業利益116.60億円(同21.8%増)で着地。車載需要の回復が追い風となったほか、ハイエンドモデルのスマートフォン向け基板の拡販に取り組んだことが奏功。稼働率の上昇、コスト削減効果、

売買単位	100 株
6/28 終値	7170 円
目標株価	8000 円
業種	電気機器

為替の影響等もあり利益が伸びた。25年3月期は売上高1950億円(前期比8.7%増)、営業利益160億円(同37.2%増)を見込む。車載向け基板が引き続き収益を牽引する見込み。基板生産の石巻第2工場、ベトナム第3工場の早期収益化に取り組む計画。株価は堅調で、次の大台となる8000円を目標株価としたい。

## ★リスク要因

円相場の急激な変動など。

## 6787:日足

適度な調整はさみつつ長期上昇相場形成中。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2021/3連	119,257	3.3%	6,657	5,697	19.0%	4,640	177.33
2022/3連	151,275	26.8%	13,255	14,294	150.9%	11,451	444.23
2023/3連	167,276	10.6%	9,575	11,212	-21.6%	8,847	338.94
2024/3連	179,458	7.3%	11,660	14,267	27.2%	11,310	428.70
2025/3連予	195,000	8.7%	16,000	15,000	5.1%	12,500	475.10

## アンビスホールディングス〈7071〉プライム

### 医療施設型ホスピス「医心館」を運営、訪問サービスも開始へ

#### ■地域のかかりつけ医と連携

医療施設型ホスピス「医心館」を運営する。国により入院日数の短縮と在宅への復帰が推し進められている中、人工呼吸器を外せなくなった患者や神経変性疾患を患う人、終末期のがん患者など、退院後の行き先に困る人を受け入れている。医師は常駐しないが、地域のかかりつけ医と連携して必要な訪問診療を提供。緩和ケア病床が全国的に不足している中、補完的役割を担っている。24年3月末の施設数は87施設、定員は4379名。東日本を中心に展開している。

#### ■西日本でも施設展開へ

24年9月期上期(23年10月-24年3月)は、売上高195.92億円(前年同期比32.9%増)、営業利益53.34億円(同35.5%増)で着地。既存施設の稼働率は安定稼働の目安である82~85%を上回る87.2%で推移。また新たに11施設の開設と1施設の定員増を実施し、収益寄与した。通期では、売上高426.38億円(前期

売買単位	100 株
6/28 終値	2299 円
目標株価	3085 円
業種	サービス業

比33.3%増)、営業利益105.00億円(同21.7%増)を見込む。第3四半期は西日本初の医心館運営を開始し、また、「医ごころ」の屋号で在宅療養者向けの訪問サービスの提供も開始する計画。株価は反発局面となっている。まずは年初来高値3085円更新を目標としたい。

#### ★リスク要因

人手不足によるスタッフの確保難など。

#### 7071:日足

75日移動平均線が下値支持線として機能。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2020/9連	9,174	70.9%	1,876	1,779	105.9%	1,239	55.33
2021/9連	15,334	67.1%	3,784	3,779	112.4%	2,627	112.31
2022/9連	23,072	50.5%	6,132	6,060	60.4%	4,279	88.06
2023/9連	31,985	38.6%	8,630	8,541	40.9%	6,310	64.44
2024/9連予	42,638	33.3%	10,500	10,309	20.7%	7,255	74.02

## 住信 SBI ネット銀行〈7163〉スタンダード

### 業績堅調なか金利上昇局面が更なる追い風に

#### ■金利上昇局面は追い風

三井住友信託銀行とSBIHDが設立したネット専門銀行。24年3月期は、経常利益が前期比18.6%増の348.46億円となった。預金口座数は24年3月末時点で726万件、預金残高は前期末比18.7%増の9兆4631億円、貸出金残高は同25.3%増の7兆2194億円へ拡大。この結果、純利益は年平均21.3%の成長を実現している。ROEは中期事業目標 17%を1年前倒して達成。25年3月期は純利益280億円を目指す方針。同社試算では10bpの市場金利上昇による資金利益影響としては、資金収益は年間92億円、調達費用は年間37億円程度で、資金利益は年間55億円に及ぶという。金利上昇局面は同社にとって追い風となる。

#### ■JPXがTOPIXの見直し案公表

株価は先週、6月4日につけた高値 3175 円へ接近。また、25日線・75日線ともに右肩上がりに上昇している。JPX 総研は19日、TOPIXの見直し案を公表し、対象銘柄をプライム市場に加え

売買単位	100 株
6/28 終値	3055 円
目標株価	3300 円
業種	銀行業

スタンダード市場、グロース市場に広げることなどの改革案を示した。これを受け、大和証券は新規採用と除外の候補銘柄の予想を発表し、同社も新規採用銘柄候補として挙がっている。業績好調で成長性高い中、目標株価は直近高値を超える 3300 円とする。

#### ★リスク要因

景気悪化による貸出金利の低下など。

#### 7163:日足

25日線・75日線ともに上昇傾向続く。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2021/3連	78,754	5.6%	-	20,726	10.6%	13,928	9236.85
2022/3連	83,527	6.1%	-	23,265	12.3%	17,113	113.49
2023/3連	98,052	17.4%	-	29,390	26.3%	19,932	132.18
2024/3連	118,572	20.9%	-	34,846	18.6%	24,845	164.78
2025/3連予	-	-	-	-	-	28,000	185.68



## AeroEdge 〈7409〉 グロース

### 加工難易度の高いチタンアルミにおける加工技術が競争力の源泉

#### ■チタンアルミ加工技術が競争力の源泉

主力事業は航空エンジンに利用されるチタンアルミブレードの製造販売。同社が製造するチタンアルミブレードは、仏 Airbus 社製 A320neo ファミリー、米 Boeing 社製 737MAX に搭載。チタンアルミは、元々ブレードに用いられていたニッケル合金に比べて重量が半分で、強度劣化しにくく、かつ耐熱性が高いという特徴がある。一方、硬くて脆いという特徴があり、加工難易度が高く、この加工技術が同社の競争力の源泉で、他社の参入障壁が非常に高い。

#### ■A320neoファミリー、737MAXともに高水準の受注残を維持

A320neo ファミリーの生産拡大は順調である一方、737MAX については品質上の課題に直面し、Boeing 社は品質課題に取り組み一定期間の生産拡大をしない方針。ただ、A320neo ファミリー、737MAX ともに高水準の受注残を維持しており、中小型機に

売買単位	100 株
6/28 終値	2937 円
目標株価	3380 円
業種	輸送用機器

おける両機種の寡占状態が変化するとも考えづらいことから、中長期的なチタンアルミブレード販売数量の拡大シナリオは変化なしと同社ではみている。25年6月期は翌期以降への成長加速にむけた準備期間と位置付けており先行投資を積極化するもよう。株価は5月高値の3380円を目標とする。

#### ★リスク要因

急激な円高進行など。

7409: 日足

5日線が25日線を上抜け、ゴールデンクロスを形成。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2020/6単	2,112	-18.6%	-	-412	-	-463	-
2021/6単	848	-59.8%	-845	-757	-	-766	-
2022/6単	1,964	131.6%	-124	10	-	7	22.00
2023/6単	2,920	48.7%	479	598	-	673	201.86
2024/6単予	3,503	20.0%	550	600	0.3%	551	144.67

## アシックス〈7936〉プライム

## シューズコレクション「CELEBRATION OF SPORT Collection」を発売

## ■新カテゴリー投入で業績への期待が高まる

スポーツの楽しさやポジティブさを表現したシューズコレクション「CELEBRATION OF SPORT Collection (セレブレーションオブスポーツコレクション)」計40品番を、7月5日からオンラインストアのほか、全国のスポーツ用品店などで順次発売する。ランニング、陸上競技、テニス、バスケットボール、サッカー、バレーボール、スケートボードなどの各競技用シューズのほか、タウンユース向けのシューズなどを展開する。今夏、各競技のトップアスリートが着用を予定しており、パリ五輪の効果も見込まれるなか、業績への期待が高まりそうだ。

## ■1:4の株式分割で一段と流動性が向上

6月30日を基準日として1株につき4株とする分割を実施したことにより、株主数の増加のほか一段の流動性向上が見込まれる。株価が上場来高値圏で推移するなか、分割によって既存

売買単位	100 株
6/28 終値	2461.0 円
目標株価	2900 円
業種	その他製品

株主は保有株式の一部を売却する可能性はあろう。一方で、現在の強い上昇トレンドを継続するなか、押し目待ち狙いの買い意欲は強いと考えられる。目標株価は週足のボリンジャーバンドの+3σ水準となる2900円とする。

## ★リスク要因

物価上昇により購買意欲低下。

7936: 日足

上向きで推移する25日線が支持線として機能。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2020/12連	328,784	-13.0%	-3,953	-6,923	-	-16,126	-
2021/12連	404,082	22.9%	21,945	22,166	-	9,402	51.38
2022/12連	484,601	19.9%	34,002	30,913	39.5%	19,887	108.60
2023/12連	570,463	17.7%	54,215	50,670	63.9%	35,272	192.52
2024/12連予	590,000	3.4%	58,000	53,000	4.6%	36,000	49.35

## 伊藤忠商事〈8001〉プライム

### バフェット氏の保有比率の引き上げへの思惑が高まる

#### ■バフェット氏傘下のアパレル会社と協業

6月7日に米国アパレル・アンダーウェアブランド「FRUIT OF THE LOOM(フルーツオブザルーム)」の、日本市場を含むアジアにおけるマスターライセンス権を取得したと発表した。5月より、まずは日本市場において、セレクトショップやアパレル専門店等の幅広い販路での展開を開始している。フルーツオブザルームは米著名投資家ウォーレン・バフェット氏率いる投資会社パークシャー・ハザウェイ傘下の企業であり、実質バフェット氏との協業の形となる。

#### ■バフェット氏効果でPBRは2倍台

バフェット氏は大手商社5社の大株主である。株価が総じて高値圏で推移し同社のPBRは2倍に上昇するなかで売却の可能性も意識されやすかったが、今回の協業によって長期保有のほか保有比率の引き上げへの思惑が高まりやすいだろう。株価は

売買単位	100 株
6/28 終値	7854 円
目標株価	9500 円
業種	卸売業

25日線を支持線とした上昇トレンドを継続。セクター内では三菱商事<8058>、三井物産<8031>と比べ相対的に良好な株価形成であり、ファンド等の資金流入が継続しそうだ。目標株価はPER15.5倍台の9500円とする。

#### ★リスク要因

旧ビッグモーター再建の遅れ。

#### 8001:日足

25日線を支持線とした上昇トレンドを継続。



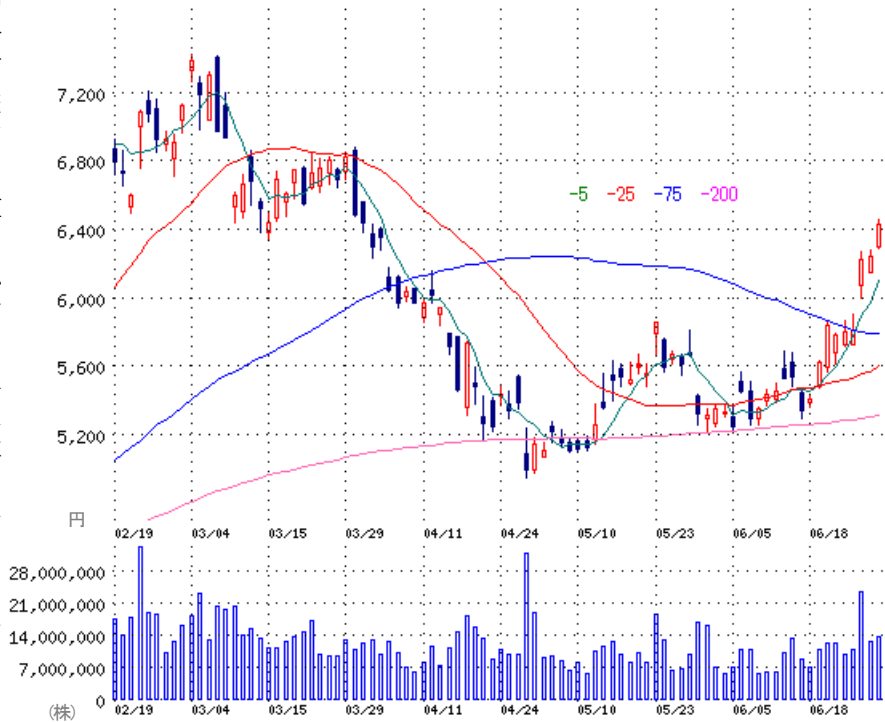
(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2021/3連I	10,362,628	-5.6%	403,414	512,475	-26.9%	401,433	269.83
2022/3連I	12,293,348	18.6%	582,522	1,150,029	124.4%	820,269	552.86
2023/3連I	13,945,633	13.4%	701,913	1,106,861	-3.8%	800,519	546.10
2024/3連I	14,029,910	0.6%	702,900	1,095,707	-1.0%	801,770	553.00
2025/3連I予	-	-	-	-	-	880,000	614.63

## アドバンテスト プライム<6857>/中長期経営方針説明会きっかけに反発力強まる

週後半にかけて上げ幅を広げる動きとなった。25日に中長期経営方針説明会を開催している。中期経営計画では、24年度から26年度の期間で売上高平均5600-7000億円、売上高総利益率53%、売上高営業利益率22-28%を目標としている。売上目標の中央値水準は市場の期待通りの水準とみられるが、上限値の7000億円などは想定以上とみられ、業績のアップサイドポテンシャルが意識される形に。

26日には米マイクロンが時間外取引で大幅安、第4四半期の売上高見通しが弱材料視された。翌日は国内半導体関連も総じて連れ安となったが、同社は比較的底堅い動きとなる。説明会後の取材などから、市場をほぼ独占しているGPU、HBM用テストでは、今後も技術優位性が揺るがないなどの評価を高める動きも一部で強まっているようだ。生成AI半導体関連としてはディスコとの比較で出遅れ感も。



## 藤田観光 プライム<9722>/再編思惑背景に株価の上値追いが続く

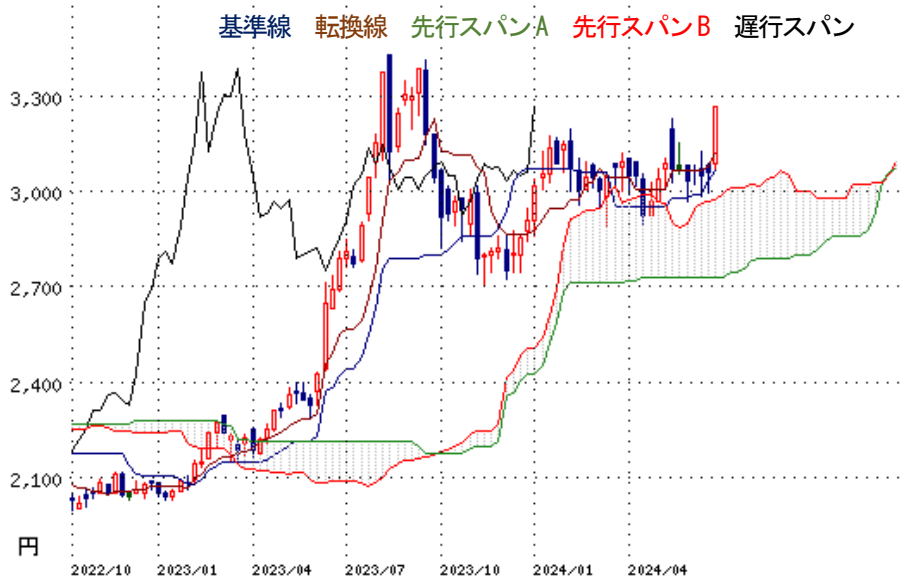
株価は6月18日から急動意、その後は上値追いが続き、先週も一段高の展開になっている。シンガポールの投資ファンドである3Dインベストメント・パートナーズが、31.9%を保有する大株主のDOWAから同社株を購入する意向があると、M&Aニュース専門メディアで伝わっており、再編プレミアムへの思惑が高まる展開となる。

さらに、先週は別の報道で、「椿山荘」の含み益がファンドの狙いかなどと伝わり、一段の上値追い材料となる形に。地価公示価格を基にすると、椿山荘の価値は土地だけで約500億円になるとされているもよう。ただ、先週末終値ベースでの時価総額は1189億円となっており、急騰前との比較で440億円強増加している。株価1万円超水準からの上値追いには慎重な対応が必要だろう。仮にTOBが行われるとしても、株価の調整が進んでからとなる公算が大きいとみられる。



## 洪沢倉庫 プライム(9304)

週足ベースの一目均衡表。先週はローソク足が大陽線で終了。上ヒゲのない「陽の大引け坊主」を描いて強い上値追い圧力を窺わせた。遅行線が応当日株価ピークの1月最終週終値3150円を超えたことから強気シグナル継続の確度が増し、三役好転下の強気形状の延長が期待される。株価下方に位置する転換線と基準線はそれぞれ上向いて上昇トレンド継続を示唆しており、昨年8月の上場来高値3435円奪回とその後の高値追いが予想される。



## ゆうちょ銀行 プライム(7182)

日足ベースのローソク足。6月20日を直近ボトムに反転を開始。先週末28日には6営業日連続で下値が切り上がるとともに、下ヒゲのない「陽の寄り付き坊主」を示現して強い買い意欲を窺わせた。週末終値はほぼ水平の25日移動平均線を上回って地合いの強気転換を示唆したことに加え、25日線の11.8円下には上昇中の5日線が迫っており、短期ゴールデンクロス形成による上昇トレンド入りが期待できよう。





## テーマ別分析: ファッション・アパレル関連は選別物色に

## ■オケージョン需要通過後の動きに注目

消費関連株を中心とする2月期決算企業の第1四半期や8月期決算企業の第3四半期決算発表が来週にかけて本格化し、7月12日にピークを迎える。ユニクロやGUを展開するファーストリテイリング<9983>は11日に第3四半期決算発表を予定しており、日経平均寄与度も高いことから注目されよう。また、ファーストリテイテの決算を機に、ファッション・アパレル関連へ関心が向いてくる可能性がある。

コロナ禍後となる前期のファッション・アパレル関連企業の業績は、入学・卒業式、結婚式等で使用するオケージョン需要の回復などで総じて好調な決算だった。今期は企業努力によるまだら模様となることが予想され、ファッション・アパレル関連銘柄は選別物色が展開されることが見込まれよう。決算発表の内容に注目したい。

## ■主な「ファッション・アパレル」関連銘柄

コード	銘柄	市場	6/28 終値 (円)	概要
2685	アダストリア	プライム	3635	「グローバルワーク」など複数のブランドを展開。
2726	パルグループHD	プライム	1813	「3COINS」など複数のブランドを展開。今期は過去最高益更新計画。
2792	ハニーズHD	プライム	1582	若者から大人までを対象とする女性向けアパレルメーカー。
3205	ダイドーリミテッド	スタンダード	807	紳士服ブランド「ニューヨーカー」などを展開。今期は黒字転換予想。
3415	TOKYO BASE	プライム	299	「UNITED TOKYO」など日本発のブランド、セレクトショップを展開。
3548	パロックジャパンリミテッド	プライム	803	「MOUSSY」など若者向けブランドを複数展開。
3558	ジェイドグループ	グロース	1636	靴・衣料品を中心としたEC通販を手掛ける。2023年6月にロコンドから社名変更。
3608	TSIHD	プライム	966	東京スタイルとサンエー・インターナショナルの経営統合により設立。既存店堅調。
3611	マツオカコーポレーション	スタンダード	1785	アパレル業界でのOEM最大手。
3612	ワールド	プライム	2108	幅広い世代向けに複数のブランドを展開するアパレル大手。
7110	クラシコム	グロース	1418	2023年8月にファッションD2Cブランド「foufou」を子会社化。
7683	ダブルエー	グロース	2345	婦人向けシューズを展開。スポーツブランドも。
8008	ヨンドシーHD	プライム	1950	宝飾品中心だが総合衣料専門店「パレット」も展開。
8011	三陽商会	プライム	2401	「ポール・スチュアート」など百貨店向けにブランドを展開。
8016	オンワードHD	プライム	622	「23区」などを展開する総合アパレル最大手。今期は2桁増益・増配見通し。
8018	三共生興	スタンダード	742	英国ブランド「DAKS」など高級ブランドを展開。
8029	ルックHD	スタンダード	2774	「Marimekko」など輸入ブランド展開。
8118	キング	スタンダード	761	「PINORE」などミセス向けブランドが主力のレディースアパレル。
9980	MRKHD	スタンダード	113	マルコブランドで補正下着を中心に展開。ベビー関連も手掛ける。
9983	ファーストリテイリング	プライム	40560	5月国内ユニクロ既存店売上高は前年同月比8.4%増。7月2日に6月度分発表。

出所: フィスコ作成

## 年初から株価の水準訂正が進み、かつ目先の調整一巡感も意識される銘柄

### ■全般的に方向感の定めにくい状況が続く

国内外の政局動向、並びに、日米金融政策の行方に不透明感が強い中、引き続き全体相場は方向感が定めにくい状況が継続しそうだ。一方方向の上昇相場も見込みにくい中、株価調整銘柄の押し目買いの動きなどに注目したい。年初から大幅な株価の水準訂正を果たした銘柄の中で、高値からの調整が進んでいる銘柄をスクリーニングしている。

スクリーニング要件としては、①年初来の株価上昇率が70%以上、②過去120日高値と現在株価の乖離率が15%以上、③時価総額が300億円以上。

### ■調整一巡感意識される年初からの上昇銘柄

コード	銘柄	市場	6/28株価 (円)	時価総額 (億円)	株価騰落率 (%)	株価乖離率 (%)	予想 1株利益 (円)
1518	三井松島HD	プライム	5,070.0	662.3	92.41	22.49	234.88
1969	高砂熱学工業	プライム	5,720.0	4,017.7	77364.00	17.83	322.62
3778	さくらインターネット	プライム	4,345.0	1,634.6	96.70	152.70	35.01
3905	データセクション	グロース	1,861.0	319.9	440.99	68.73	0.99
4107	伊勢化学工業	スタンダード	29,660.0	1,523.0	245.29	36.55	902.54
4894	クオリップス	グロース	7,810.0	590.3	236.49	15.49	-
5595	QPS研究所	グロース	2,572.0	900.2	102.84	93.43	-
5631	日本製鋼所	プライム	4,283.0	3,186.0	74.82	16.04	210.61
6016	ジャパンエンジンコーポ	スタンダード	15,690.0	439.3	118.52	19.18	357.81
6638	ミマキエンジニアリング	プライム	1,927.0	617.4	108.32	15.72	138.96
6871	日本マイクロニクス	プライム	6,690.0	2,677.7	82.29	33.63	-
6941	山一電機	プライム	3,330.0	776.9	72.00	16.07	244.58
7003	三井E&S	プライム	1,456.0	1,501.1	106.23	99.04	360.22
9509	北海道電力	プライム	1,194.0	2,570.6	91.16	46.57	202.57

(注) 株価騰落率は昨年末比

(注) 株価乖離率は過去120日高値と現在株価乖離率

出所：フィスコアプリより作成

## アナリスト予想の修正が大きい銘柄

### ■アナリストが強気の見通しを示し、会社計画の上方修正も期待される銘柄として注目

日経平均が3万9000円付近でのみ合いを続ける中、材料難からしばらくは方向感の出づらいつ展開が続くことも想定されるとみて、東海東京インテリジェンス・ラボでは改めて企業業績に着目した銘柄選別に着目している。25年3月期の会社計画については、当期利益が前年比で減益（TOPIX1000を対象）と低調な見通しとなっているが、期初時点では例年保守的な計画を出す傾向にあることを考慮すれば、今後は中間決算などで上方修正期待も高まっていくと想定。そこで同証券では、(1)25/3期当期利益計画（会社計画）が前年比増益、(2)25/3期QUICKコンセンサス（QC）予想（6月19日時点）が会社計画を上回り、かつ3月31日時点のQC予想から大きく修正されている（10%以上の修正率）銘柄、とアナリスト予想に着目した条件でスクリーニングを実施。アナリストが強気の見通しを示し、会社計画の上方修正も期待される銘柄として注目している。

### 「25年3月期QC予想が増額修正された銘柄」（東海東京インテリジェンス・ラボ）

コード	銘柄略称	業種	株価 6/19終値 (円)	当期利益					
				24/3期実 (百万円)	25/3期実 (百万円)	増益率 (%)	25/3期QC 3/31時点 (百万円)	25/3期QC 6/19時点 (百万円)	修正率 (%)
8242	H20リテイル	小売業	2,280.0	21,905	26,000	18.7	17,633	28,067	59.2
8725	MS&AD	保険業	3,123.0	369,266	610,000	65.2	387,538	612,400	58.0
1860	戸田建	建設業	1,055.5	16,101	27,000	67.7	19,600	28,125	43.5
9301	三菱倉	倉庫・運輸関連業	5,177.0	27,787	36,600	31.7	26,200	36,700	40.1
8766	東京海上	保険業	5,437.0	695,808	870,000	25.0	645,171	878,800	36.2
3002	ゲンゼ	繊維製品	5,670.0	5,109	7,500	46.8	5,621	7,532	34.0
6875	メガチップス	電気機器	4,230.0	4,486	5,000	11.5	4,091	5,316	29.9
9107	川崎船	海運業	2,250.0	104,776	120,000	14.5	130,833	166,250	27.1
4540	ツムラ	医薬品	4,047.0	16,707	28,500	70.6	25,145	30,367	20.8
1801	大成建	建設業	5,865.0	40,272	65,000	61.4	63,186	75,583	19.6
9101	郵船	海運業	4,703.0	228,603	245,000	7.2	237,717	283,825	19.4
6787	メイコー	電気機器	7,300.0	11,310	12,500	10.5	11,087	13,000	17.3
4208	UBE	化学	2,752.0	28,981	29,500	1.8	25,425	29,700	16.8
6140	旭ダイヤ	機械	932.0	2,109	2,600	23.3	2,450	2,850	16.3
4547	キッセイ薬	医薬品	3,180.0	11,160	11,300	1.3	10,648	12,335	15.8
1969	高砂熱	建設業	5,800.0	19,612	21,400	9.1	19,250	22,067	14.6
6951	日電子	電気機器	6,390.0	21,704	22,500	3.7	21,328	24,233	13.6
9010	富士急	陸運業	2,816.0	4,571	5,000	9.4	4,875	5,529	13.4
7167	めぶきFG	銀行業	593.3	43,366	52,000	19.9	49,775	56,100	12.7
2875	東洋水産	食料品	9,565.0	55,653	59,000	6.0	53,229	59,567	11.9

出所：QUICKより東海東京インテリジェンス・ラボ作成  
TOPIX1000、3月本決算企業、QC予想（アナリスト予想の平均）が3社以上（6/19時点）を対象  
25/3期QC修正率が大きい順（3/31時点と6/19時点の比較）

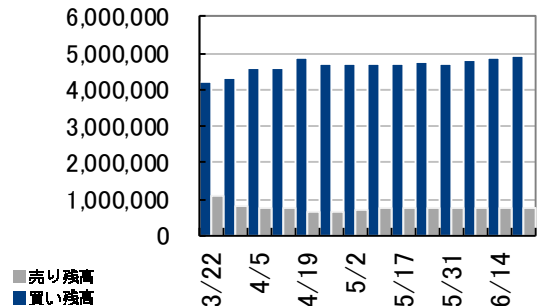
## 信用買い残がさらに積みあがる状況に

6月21日時点の2市場信用残高は、買い残高が420億円増の4兆9117億円、売り残高が9億円増の7617億円。買い残高が3週連続で増加、売り残高も小幅ながら2週連続の増加となった。また、買い方の評価損益率は-6.07%から-6.79%、売り方の評価損益率は+3.11%から+5.59%に。なお、信用倍率は6.40倍から6.45倍。

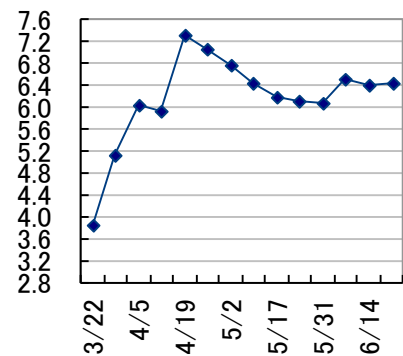
この週(6月17日-21日)の日経平均は前週末終値比218.09円安の38596.47円。週初は6月末から7月上旬に実施されるフランス下院選で極右政党が躍進するとの観測が高まり、欧州政治不安をきっかけに日経平均は急落。ハイテク株を含めた幅広い銘柄が下落し、日経平均は一時37000円台に突入するきつい下落となった。その後、欧州政治不安は沈静化したことでじりじりと買戻しが入り週初の下げは埋めたものの、目立った売買材料が乏しく積極的な売買は手控えられ、20日のプライム市場の売買代金は3.17兆円と今年最低を更新するなど週を通して高いは閑散。日経平均は25日移動平均線に頭を抑えられる格好となった。

個別では、カゴメ<2811>の信用倍率は0.57倍となり、前週の2.39倍から一気に売り長の需給状況になった。6月14日に、自己株式の処分などで最大253億円を調達すると発表。発行済み株式総数の約7%にあたる652万1800株を公募で売却するほか、オーバーアロットメントにより最大97万8200株(発行済み株式総数の約1%)を売り出す。需給悪化懸念から週明け17日には3カ月ぶりの安値水準まで急落するなか、ヘッジ対応の新規売りが積み上がる形となった。グリコ<2206>は、前週の1.10倍から売り長の需給になった。12月期決算企業であるが、6月30日現在の株主を基準に、年1回、12月上旬頃に株主優待を発送しているため、ノーリスクで優待取りを狙ったヘッジ対応の新規売りが積み上がったようである。

信用残高 金額ベース 単位：百万円



信用倍率 (倍)



### 取組みが改善した銘柄

コード	市場	銘柄	6/28終値 (円)	信用買残 (6/21:株)	信用売残 (6/21:株)	信用倍率 (6/21:倍)	信用買残 (6/14:株)	信用売残 (6/14:株)	信用倍率 (6/14:倍)
2811	プライム	カゴメ	3,268.0	955,300	1,686,100	0.57	342,600	143,600	2.39
2206	プライム	グリコ	4,181.0	175,400	486,000	0.36	176,400	159,900	1.10
9072	プライム	ニッコンHD	3,639.0	45,900	389,700	0.12	419,900	1,316,000	0.32
7013	プライム	IHI	4,805.0	1,844,900	411,800	4.48	2,036,100	187,500	10.86
4985	プライム	アース製薬	4,830.0	98,700	331,600	0.30	89,500	132,800	0.67
7532	プライム	パンパシHD	3,764.0	547,900	1,230,000	0.45	553,000	579,900	0.95
4680	プライム	ラウンドワン	826.0	5,250,500	1,316,900	3.99	5,397,400	756,400	7.14
6857	プライム	アドバンテ	6,425.0	11,686,900	1,668,100	7.01	12,316,300	993,600	12.40
5253	グロース	カバー	2,005.0	6,076,000	4,256,600	1.43	6,733,000	2,710,200	2.48
7342	グロース	ウェルスナビ	1,508.0	4,659,000	1,082,100	4.31	4,877,900	654,000	7.46
7211	プライム	三菱自	443.2	27,414,800	4,810,800	5.70	34,169,400	3,530,200	9.68
9722	プライム	藤田観	9,740.0	112,000	259,600	0.43	111,900	162,100	0.69
6861	プライム	キーエンス	70,550.0	192,200	65,800	2.92	237,500	52,800	4.50
5401	プライム	日本製鉄	3,401.0	12,492,900	438,700	28.48	12,623,900	298,300	42.32
7203	プライム	トヨタ	3,290.0	24,452,700	2,069,900	11.81	24,260,700	1,389,100	17.47

## コラム: 7月のドル円は乱高下か

ドル・円相場は37年超ぶりの高値圏に浮上し、日本政府が4月末に続き為替介入に踏み切るか注目されています。7月末にかけて日米中銀の政策決定も予定され、市場の観測は交錯。重要イベントが目先の方向性を決める可能性もあり、値動きには目が離せません。

6月にカナダ銀行と欧州中央銀行が利下げ、スイス国立銀行が追加利下げを相次いで決定。対照的に、米連邦準備制度理事会(FRB)は国内インフレ率の低下が不十分とし、引き締めの金融政策の長期化が見込まれ、ドル選好地合いを強めています。その影響でドル・円は4月末の直近高値160円21銭を上抜け、プラザ合意を受けた下落の際に付けた1986年以来の水準に浮上しました。

ドル・円は目下、日米両政府の思惑の違いで神経質な値動きとなり、160円台でのみ合いが続いています。米財務省は直近の為替報告書で日本を為替操作国の監視リストに加え、4月末から5月にかけて実施した9.8兆円規模の為替介入を問題視。それにより介入を封じられたとの見方から円売りが続く一方、日本は円安けん制で介入の再実施をちらつかせ円安のペースを鈍らせています。

前回の為替介入の時は日銀金融政策決定会合とその直後の連邦公開市場委員会(FOMC)の2営業日で5円程度上昇したことから、勢いを止めるとの口実で日本の介入には正当性があったように思われます。それに比べ今回の160円台は上昇ペースが緩やかなため、同水準での「実弾投入は困難」と短期筋。仮に実施しても、ドル選好地合いに飲み込まれ、効果は短期にとどまるとの見方もあります。

歴史的な円安を止めるのは、アメリカの物価上昇圧力の一服でしょう。7月発表の消費者物価指数(CPI)やコアPCE価格指数が前を下回れば、引き締めの金融政策の長期化を見込んだドル買いは後退が見込まれます。そして7月30-31日のFOMCで当局者がタカ派姿勢を緩めるシナリオが考えられます。その際には早期利下げ観測が再浮上し、ドル選好地合いは巻き戻しが予想されます。

もう一つは、同じタイミングで開催される日銀金融政策決定会合での大規模な国債買入れ減額と追加利上げでしょう。植田和男総裁は6月の会合後の記者会見で利上げの可能性に言及しており、市場も織り込みを進めています。ただ、減額や利上げの規模が想定内なら、逆に失望による円売りを招くことになり、ドル・円の当面の想定レンジは160-170円に切り上げられるでしょう。

7月はフランス議会選の投票結果など政治情勢も市場を揺るがす材料になり、大相場がみられそうです。

※あくまでも筆者の個人的な見解であり、弊社の見解を代表するものではありません。



1	スケジュール	経済カレンダー	2-4
		決算カレンダー	5
2	レーティング	格上げ・買い推奨	6
		格下げ・売り推奨	7
3	投資主体別売買動向	総括コメント	8
		市場別データ	9
4	新規上場銘柄	結果とスケジュール	10
5	一目均衡表雲抜け銘柄	雲上抜け銘柄 (プライム)	11
		雲下抜け銘柄 (プライム)	12

7月1日~7月7日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容		
7月1日	月	08:50	日銀短観(大企業製造業DI)(6月)		
		09:30	製造業PMI(6月)		
		10:30	豪・小売売上高(5月)		
		10:45	中・財新製造業PMI(6月)		
		14:00	消費者態度指数(6月)		
		14:00	印・製造業PMI確定値(6月)		
		17:00	欧・ユーロ圏製造業PMI(6月)		
		20:00	ブ・FGV消費者物価指数(IPC-S)(先週)		
		20:25	ブ・週次景気動向調査		
		21:00	独・消費者物価指数(6月)		
		22:00	ブ・製造業PMI(6月)		
		22:45	米・製造業PMI(6月)		
		23:00	米・建設支出(5月)		
		23:00	米・ISM製造業景況指数(6月)		
			欧・欧州中央銀行(ECB)フォーラム、ラガルド総裁が開会の辞(3日まで)		
			欧州連合(欧)議長団に就任(ハンガリーが2024年下期)		
		7月2日	火	08:50	マネタリーベース(6月)
				17:00	ブ・FIPE消費者物価指数(6月)
18:00	欧・ユーロ圏消費者物価コア指数(6月)				
18:00	欧・ユーロ圏失業率(5月)				
23:00	米・JOLT求人数(5月)				
	PRISM BioLabが東証グロースに新規上場(公開価格:450円)				
	米・自動車販売(6月、3日までに)				
	欧・パウエル連邦準備制度理事会(FRB)議長とラガルドECB総裁がECBフォーラムのパネル討論会に参加				
7月3日	水	09:30	サービス業PMI(6月)		
		09:30	総合PMI(6月)		
		10:45	中・財新サービス業PMI(6月)		
		10:45	中・財新総合PMI(6月)		
		14:00	需給ギャップと潜在成長率(日本銀行)		
		14:00	印・サービス業PMI確定値(6月)		
		14:00	印・総合PMI確定値(6月)		
		17:00	欧・ユーロ圏サービス業PMI(6月)		
		17:00	欧・ユーロ圏総合PMI(6月)		
		18:00	欧・ユーロ圏生産者物価指数(5月)		
		21:00	ブ・鉱工業生産(5月)		
		21:15	米・ADP全米雇用報告(6月)		
		21:30	加・貿易収支(5月)		
		21:30	米・新規失業保険申請件数(先週)		
		21:30	米・貿易収支(5月)		
		22:00	ブ・サービス業PMI(6月)		
		22:00	ブ・総合PMI(6月)		
		22:45	米・サービス業PMI(6月)		
		22:45	米・総合PMI(6月)		
		23:00	米・製造業受注(5月)		
		23:00	米・ISM非製造業景況指数(6月)		
		25:00	露・GDP(1-3月)		
			連合が2024年春季生活闘争(春闘)の最終回答集計結果公表		
			新紙幣発行		
			米・連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(6月11日-12日会合分)		
			欧・ニューヨーク連銀総裁がECBフォーラムのパネル討論会に参加		
			欧・ラガルドECB総裁がECBフォーラムで閉会の辞		
			カザフスタン・上海協力機構(SCO)首脳会議(4日まで)		
			独・10年債入札		

7月1日~7月7日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
7月4日	木	08:50	対外・対内証券投資(先週)
		10:30	豪・貿易収支(5月)
		14:45	スイス・失業率(6月)
		15:00	独・製造業受注(5月)
		27:00	ブ・貿易収支(6月)
			米・株式市場は祝日のため休場(独立記念日)
			英・総選挙
			欧・欧州中央銀行(ECB)議事要旨(6月会合)
7月5日	金	08:30	家計支出(5月)
		14:00	景気先行CI指数(5月)
		14:00	景気一致指数(5月)
		15:00	コール市場残高(6月、日本銀行)
		15:00	独・鉱工業生産指数(5月)
		18:00	欧・ユーロ圏小売売上高(5月)
		21:30	加・失業率(6月)
		21:30	米・非農業部門雇用者数(6月)
		21:30	米・失業率(6月)
		21:30	米・平均時給(6月)
			印・外貨準備高
			米・ニューヨーク連銀総裁が基調講演
			欧・ラガルドECB総裁が講演
		7月7日	日
	中・外貨準備高(6月)		
	仏・国民議会(下院)選挙の第2回投票		

**■(日)日銀短観6月調査****7月1日(月)午前8時50分発表予定**

(予想は、大企業製造業DI 11) 3月調査では品質不正による一部自動車メーカーの生産停止を受けて景況感は悪化。今回については物価高による需要減少、コスト増加、人手不足は解消されていないことなどから、企業マインドの改善は期待薄か。

**■(米)6月ISM製造業景況指数****7月1日(月)午後11時発表予定**

(予想は、49.0) 参考となる5月実績は48.7に悪化したか、先行指標となる6月製造業PMIは改善している。一方、新規受注の増加は期待できないため、6月の数値は5月実績並みの水準にとどまる可能性がある。

**■(米)5月貿易収支****7月3日(水)午後9時30分発表予定**

(予想は、-712億ドル) 参考となる4月実績は-746億ドル。輸入増加で赤字幅は拡大した。5月については、輸出増加は期待できないものの、輸入額がやや減少するとみられており、赤字幅は縮小する見込み。

**■(米)6月雇用統計****7月5日(金)午後9時30分発表予定**

(予想は、非農業部門雇用者数 前月比+18.5万人、失業率 4.0%) 雇用者数の増加幅は5月実績を下回る見込みだが、労働市場の急速な減速を示唆するものではないとみられる。失業率は5月と同水準になると予想されるが、年末にかけてゆるやかに上昇する可能性が高いとみられる。

※なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
7月1日	1712	ダイセキ環境ソリューション	スタンダード	-
	2975	スター・マイカ・ホールディングス	プライム	-
	3186	ネクステージ	プライム	-
	5942	日本ファイルコン	スタンダード	-
	7965	象印マホービン	プライム	-
	9793	ダイセキ	プライム	-
7月2日	3498	霞ヶ関キャピタル	プライム	-
	6469	放電精密加工研究所	スタンダード	-
7月3日	2670	エービーシー・マート	プライム	-
	2678	アスクル	プライム	-
	3612	ワールド	プライム	-
	4361	川口化学工業	スタンダード	-
	9275	ナルミヤ・インターナショナル	スタンダード	-
7月4日	2493	イーサポートリンク	スタンダード	-
	2809	キューピー	プライム	-
	2830	アヲハタ	スタンダード	-
	3035	ケイティケイ	スタンダード	-
	3377	バイク王&カンパニー	スタンダード	-
	3549	クスリのアオキホールディングス	プライム	-
	4728	トーセ	スタンダード	-
	8016	オンワードホールディングス	プライム	-
	9369	キューソー流通システム	スタンダード	-
	9414	日本BS放送	スタンダード	-
7月5日	9948	アークス	プライム	-
	1997	暁飯島工業	スタンダード	-
	2300	きよこう	スタンダード	-
	2659	サンエー	プライム	-
	2734	サーラコーポレーション	プライム	-
	2789	カルラ	スタンダード	-
	3321	ミタチ産業	スタンダード	-
	3396	フェリシモ	スタンダード	-
	3815	メディア工房	グロース	-
	4394	エクスモーション	グロース	-
	4992	北興化学工業	スタンダード	-
	5900	ダイケン	スタンダード	-
	6093	エスクロー・エージェント・ジャパン	スタンダード	-
	6492	岡野パルプ製造	スタンダード	-
	6506	安川電機	プライム	-
	6734	ニューテック	スタンダード	-
	7611	ハイデイ日高	プライム	-
	7679	薬王堂ホールディングス	プライム	-
	7730	マニー	プライム	-
	8923	トーセイ	プライム	-
	8931	和田興産	スタンダード	-
	9313	丸八倉庫	スタンダード	-
	9842	アー克蘭ズ	プライム	-
9972	アルテック	スタンダード	-	



## 格上げ・買い推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価(円)
6月24日	UBS	4021	日産化	NEUTRAL→BUY格上げ	6700→6800
	いちよし	2874	ヨコレイ	B→A格上げ	1200→1300
	みずほ	2282	日ハム	中立→買い格上げ	5100→5600
	モルガン	4369	トリケミカル	EQUALWEIGHT→OVERWEIGHT格上げ	4600→5700
6月25日	SMBC日興	9793	ダイセキ	2→1格上げ	4500→4400
	UBS	3659	ネクソン	NEUTRAL→BUY格上げ	-
		6460	セガサミーHD	BUY新規	3170
		9697	カプコン	NEUTRAL→BUY格上げ	-
6月26日	SMBC日興	6005	三浦工	2→1格上げ	3600→4700
	大和	7167	めぶきFG	3→2格上げ	500→700
	東海東京	6823	リオン	OUTPERFORM新規	3780
	野村	6524	湖北工業	BUY新規	3000
		7575	日本ライフ	BUY新規	1300
		7947	エフピコ	NEUTRAL→BUY格上げ	3220→3010
6月27日	東海東京	4275	カーリット	OUTPERFORM新規	1900

## 格下げ・売り推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価（円）
6月25日	SMBC日興	6432	竹内製作	1→2格下げ	5100→5300
	UBS	4751	サイバー	BUY→NEUTRAL格下げ	-
		9684	スクエニHD	BUY→NEUTRAL格下げ	-
6月26日	モルガン	8309	三住トラスト	OVERWEIGHT→EQUALWEIGHT格下げ	3400→4000
	大和	9025	鴻池運輸	2→3格下げ	1800→2550
6月27日	みずほ	4886	あすか製薬HD	買い→中立格下げ	2500
		7735	スクリーンHD	買い→中立格下げ	21000→16000
	東海東京	5105	TOYO	OUTPERFORM→NEUTRAL格下げ	3100→2800
	野村	4912	ライオン	BUY→NEUTRAL格下げ	1650→1430
6月28日	UBS	7205	日野自	NEUTRAL→SELL格下げ	500→370
	いちよし	3392	デリカフHD	A→B格下げ	800→650
	大和	4540	ツムラ	2→3格下げ	4700→4400

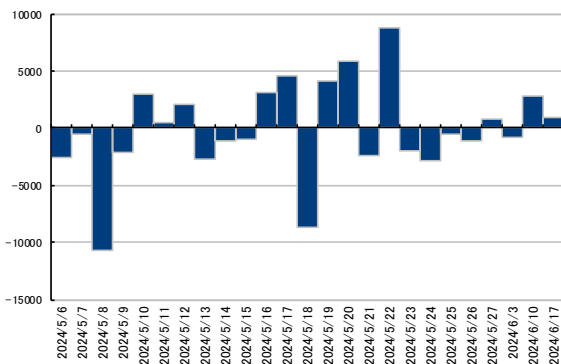
## 6月第3週:外国人投資家は総合で売り越しに転じる

6月第3週の投資主体別売買動向によると、外国人投資家は総合で6392億円と売り越しに転じた。現物とTOPIX先物は売り越しを継続、225先物は売り越しに転じた。個人投資家は総合で868億円と買い越しを継続した。

そのほか、投信は129億円と買い越しに転じ、都地銀は430億円と売り越しに転じた。生・損保は80億円と売り越しを継続し、事法は2259億円と買い越しを継続し、信託は919億円と売り越しを継続した。

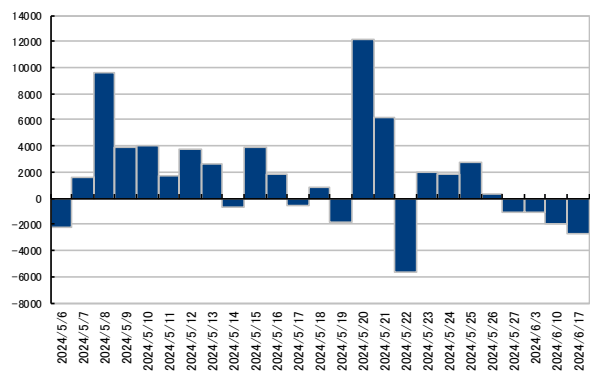
なお、自己は現物で売り越しを継続し、TOPIX先物で買い越しを継続し、225先物は買い越しに転じ、総合で4163億円と買い越しに転じた。この週の裁定残は前週末比589.36億円増（買い越し）とネットベースで1兆6706.47億円の買い越しとなった（買い越し幅増加）。週間の騰落率は日経平均で0.56%の下落だった。

個人



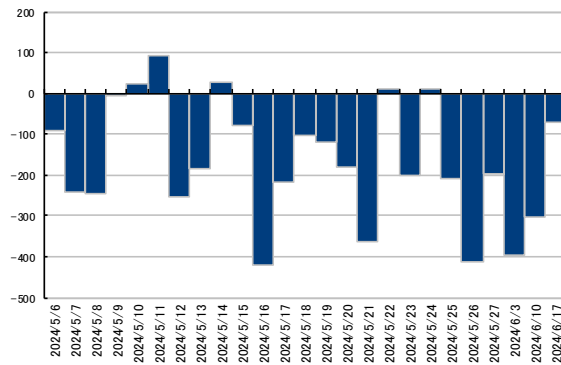
単位: 億円

外国人



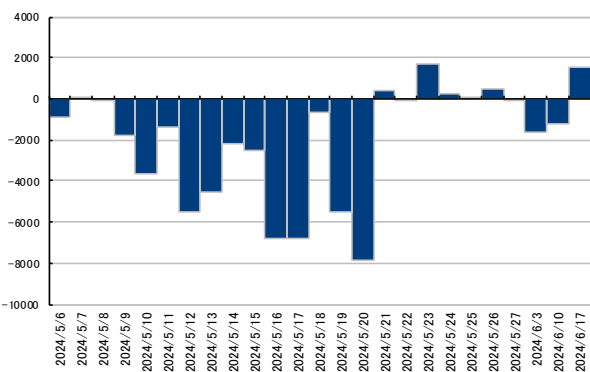
単位: 億円

生・損保



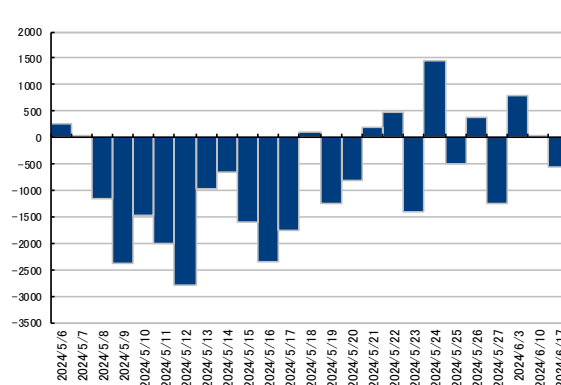
単位: 億円

信託銀



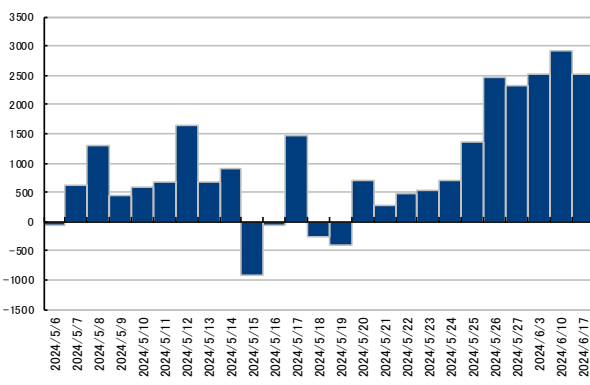
単位: 億円

投信



単位: 億円

事業法人



単位: 億円

単位:億円

現物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	24/03/11	2,962	4,550	▲503	▲1,755	1,461	▲218	▲167	▲6,823
24/03/18	9,265	▲8,730	829	93	▲252	▲104	42	▲676	
24/03/25	5,261	4,113	▲1,832	▲1,252	▲406	▲121	▲510	▲5,495	
24/04/01	▲9,671	5,836	12,110	▲823	715	▲182	▲542	▲7,845	
24/04/08	▲4,058	▲2,372	6,138	184	280	▲363	▲39	404	
24/04/15	▲3,802	8,752	▲5,618	483	489	11	▲353	▲41	
24/04/22	▲439	▲1,921	2,030	▲1,412	543	▲202	▲118	1,707	
24/04/30	▲1,420	▲2,913	1,909	1,446	704	10	309	257	
24/05/07	▲2,522	▲528	2,701	▲499	1,363	▲208	▲248	85	
24/05/13	▲2,153	▲1,093	384	374	2,477	▲412	▲24	492	
24/05/20	▲840	715	▲1,017	▲1,258	2,325	▲196	▲11	▲108	
24/05/27	932	▲865	▲1,102	793	2,514	▲395	▲191	▲1,644	
24/06/03	▲2,280	2,811	▲1,941	15	2,904	▲301	▲90	▲1,250	
24/06/10	▲2,085	975	▲2,694	▲570	2,513	▲70	▲137	1,557	
24/06/17	▲2,557	1,910	▲185	186	2,276	▲91	▲22	▲1,918	

単位:億円

TOPIX先物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	24/03/11	▲4,383	519	▲1,167	113	7	57	1,381	3,404
24/03/18	▲3,793	274	3,013	106	▲2	49	▲208	344	
24/03/25	▲1,969	▲1,047	▲6,002	1,993	▲10	15	▲1,482	8,692	
24/04/01	948	▲100	▲3,381	345	▲4	193	674	1,546	
24/04/08	▲118	▲221	2,603	91	11	▲67	493	▲2,902	
24/04/15	1,886	▲84	▲2,424	416	▲3	▲53	▲203	422	
24/04/22	▲355	▲375	491	313	▲4	▲22	51	▲23	
24/04/30	▲769	844	▲73	19	▲7	▲115	▲161	205	
24/05/07	▲496	▲794	▲1,194	▲144	▲1	41	2,355	210	
24/05/13	776	697	▲1,797	11	▲0	53	33	194	
24/05/20	▲808	▲547	1,137	61	▲0	66	▲70	106	
24/05/27	▲625	▲237	1,040	▲92	5	▲109	56	18	
24/06/03	1,312	388	▲1,367	▲28	▲5	16	▲243	▲110	
24/06/10	850	▲72	▲645	67	7	▲35	181	▲422	
24/06/17	3,416	▲317	▲3,158	▲42	0	11	80	43	

単位:億円

日経平均先物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	24/03/11	1,228	640	▲3,585	529	5	62	765	▲455
24/03/18	2,918	306	▲4,442	▲1,135	35	▲1	943	1,228	
24/03/25	▲662	172	▲2,005	1,074	51	0	1,557	211	
24/04/01	▲4,473	1,357	▲267	663	▲15	567	1,169	408	
24/04/08	536	▲747	▲1,880	2,064	▲93	195	78	183	
24/04/15	1,065	614	▲866	697	118	0	▲1,479	221	
24/04/22	▲2,096	▲994	▲692	889	▲48	0	427	977	
24/04/30	▲213	445	▲105	413	▲11	▲7	▲12	▲201	
24/05/07	1,954	▲768	▲2,300	37	▲5	14	821	324	
24/05/13	▲104	914	▲614	▲332	▲20	1	316	▲236	
24/05/20	41	▲387	316	▲546	46	▲10	640	▲352	
24/05/27	▲1,199	▲446	350	513	12	1	386	456	
24/06/03	1,020	339	▲59	▲754	▲2	0	▲262	▲274	
24/06/10	▲2,990	158	3,821	450	▲26	▲94	51	▲1,408	
24/06/17	3,304	▲725	▲3,049	▲15	▲17	0	▲488	956	

※ データは直近の新規上場銘柄の結果とスケジュールを全て掲載しています。  
証券会社によって取り扱いが異なりますので、お取引の際は各証券会社にご確認ください。

銘柄名	コード	市場	上場日	仮条件 (円)	公募株数 (株)	売出株数 (株)	公募価格 (円)	初値 (円)	主幹事	6/28終値 (円)
豆蔵デジタルホールディングス	202A	グロース	6/27	1,280~1,330	50,000	5,087,500	1,330	1,348	SMBC日興、 MUMSS、モルガン	1,506
事業内容:	企業のデジタルシフトを実現し、顧客とともにデジタル競争力を高めるためのクラウドコンサルティングサービス、AIコンサルティングサービス、AIロボティクス・エンジニアリングサービス、モビリティ・オートメーションサービス									
ロゴスホールディングス	205A	グロース	6/28	2,190~2,290	50,000	1,555,800	2,290	2,290	SMBC日興	1,930
事業内容:	デジタルマーケティング集客およびDXによる効率的なオペレーションを活用した注文住宅事業									
PRISM BioLab	206A	グロース	7/2	435~450	4,000,000	600,000	450	-	SMBC日興	-
事業内容:	独自の創薬基盤(PepMetics技術)を用いた新規医薬品の研究・開発									
カドス・コーポレーション	211A	スタンダード	7/18	-	198,000	232,000	-	-	SMBC日興	-
事業内容:	土地活用の提案から設計・施工までトータルプロデュースすることにより、流通店舗の建築工事を受注する建設事業及び当該店舗等をテナント企業に賃貸する不動産事業									
フィットイージー	212A	スタンダード 名メイン	7/23	-	900,000	3,400,000	-	-	大和	-
事業内容:	アミューズメントフィットネスクラブの運営、企画、FC展開事業									
タイミー	215A	グロース	7/26-8/1	-	0	32,245,400	-	-	大和、 MUMSS	-
事業内容:	スキマバイトサービス「タイミー」の運営等									
Liberaware	218A	グロース	7/29	-	1,700,000	1,444,900	-	-	SMBC日興	-
事業内容:	屋内狭小空間点検ドローン「IBIS」をベースにしたドローン等の開発と、点検サービス、ドローンのレンタル・販売、及びドローン等で収集したデータの処理・解析するサービスを提供									
Heartseed	219A	グロース	7/30	-	1,801,700	0	-	-	SMBC日興	-
事業内容:	重症心不全患者を対象とした iPS 細胞由来心筋球移植治療をはじめとする再生医療等製品の研究・開発									
Faber Company	220A	スタンダード	7/31	-	320,000	751,400	-	-	SBI	-
事業内容:	デジタルマーケティング自動化ツール「ミエルカ SEO」等SaaS提供、フリーランス人材等を活用したマーケティング支援									

## 雲上抜け銘柄(プライム)

コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)	コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)
1719	安藤ハザマ	1166	1128.75	1052.5	1721	コムシスHD	3091	3090.75	2811
1726	Br. HD	366	365	364	1821	三住建設	400	398.5	395
1873	日本ハウスHD	344	318.75	342.5	2163	アルトナー	1994	1978.25	1656
2220	亀田菓	4245	4071.25	4205	2305	スタジオアリス	2134	2092.75	2127
2335	キューブシス	1191	1118.75	1151	2445	タカミヤ	501	491.5	468
2579	コカBJH	2017	1943.5	1726.5	3101	東洋紡	1054	1045.75	1053.5
3107	ダイワボHD	2882	2860.75	2486.5	3288	オープンH	4928	4651.5	4883
3360	シップHD	2375	2239.75	2325.5	3580	小松マテーレ	774	760	730.5
3763	プロシップ	1391	1312	1386	4151	協和キリン	2748	2460	2713.5
4218	ニチバン	1923	1834.5	1904	4527	ロート薬	3371	3282.5	3116
4547	キッセイ薬	3260	3163	3008	4768	大塚商会	3091	2998.75	2658
4951	エステー	1573	1513.25	1555.5	4958	長谷川香	3350	3208.25	3190
5192	三星ベルト	4525	4478.75	4200	5384	FUJIMI	3035	3003.25	2928.5
5480	冶金工	4570	4360	4490	5715	古河機金	1880	1860.5	1693.5
5911	横河プHD	2708	2642.25	2366.5	6118	アイダ	911	904.5	899.5
6277	ホソミクロン	4225	4101.25	3597.5	6287	サトーHD	2155	2037.25	2130.5
6472	NTN	320	281	315	6741	日信号	1053	962.75	1036
6779	日電波	1439	1268.75	1354	7092	FFJ	1439	1238.25	1425
7172	JIA	1619	1517.75	1463	7459	メディバル	2448	2437	2173.5
7832	パンナムHD	3140	3035.25	3057	8079	正栄食	4690	4651.25	4575
8160	木曽路	2599	2580	2391.5	8167	リテールP	1738	1653.5	1520
8185	チヨダ	935	886	905	8219	青山商	1494	1489.75	1288
8237	松屋	1123	985.25	1058.5	8276	平和堂	2416	2320.5	2310
8424	芙蓉リース	12305	12005	10685	9021	JR西	2995	2983.25	2936
9076	セイノーHD	2171	2131.5	1705	9364	上組	3313	3238.75	3032
9502	中部電力	1901	1886	1690	9535	広島ガス	398	384.25	374.5
9658	ビジ太昭	2249	2124.25	2185	9832	オートボックス	1555	1553.5	1517
9987	スズケン	4889	4621.75	4173.5					



## 雲下抜け銘柄(プライム)

コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)	コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)
1414	ショーボンド	5761	6129	5879	2168	パソナ	2108	2185.25	2164
2503	麒麟HD	2073	2113.25	2075.5	4776	CYBOZU	1999	2016.25	2453
6753	シャープ	930	985	950.5	7537	丸文	1250	1386.75	1278.5
8200	リンガーハット	2280	2344	2360	8584	ジャックス	4655	5121.25	4702.5
9468	カドカワ	2580	2865.5	2947.5					

## 株式、債券、ファンド、上場ETF及び上場リートのご購入の際のご注意事項

当資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的としており、個別の金融商品の投資勧誘を目的として作成または提供するものではありません。当資料は、作成者が信頼できると判断した情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性や完全性を、または、将来の経済・市況動向等を予測・保証するものではありません。また、当資料中の見解等は今後予告なく変更される場合がありますので、投資に係る最終決定はご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。金融商品等の手数料等及びリスクについては、当該商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書及びお客さま向け資料等に記載しておりますので、よくお読みください。

### 【お取引時の手数料について】(営業店でお取引の場合の手数料率、税込表示)

- 国内株式の売買取引には約定代金に対して最大1.155%の売買手数料(同手数料額が2,750円に満たない場合は2,750円)をいただきます。マルチネット取引で売買いただく場合には対面取引の基本手数料から20%割引(当該金額が2,200円に満たない場合には、一律2,200円)となります。又、外国株式の売買取引には売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合は加え、売りの場合は差し引いた金額)に対して最大0.88%の委託手数料(同手数料額が2,750円に満たない場合は2,750円)をいただきます。
- 非上場債券(国債、地方債、政府保証債、社債等)を当社が相手方となり、お買付けいただく場合には、購入対価のみお支払いいただきます。
- ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。＜直接費用＞購入手数料(スイッチング手数料を含む)上限3.85%、換金手数料上限1.10%、信託財産留保額上限0.50%が必要となります。マルチネット取引の場合は購入手数料(スイッチング手数料を含む)、換金手数料について対面取引手数料の20%割引となります。  
＜間接費用＞運用管理費用(信託報酬)上限2.50%、(注)その他の費用・手数料(監査費用、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用、信託事務に要する諸費用等)をご負担頂きます。(注)その他費用・手数料は、運用状況等により変動する為、料率の上限等を示すことができません。
- 外国株式、外国債券、外国投資信託を売買取引する際の円貨と外貨の交換レートには、約定代金に応じて当社が決定する為替スプレッドがあります。

### 【リスクについて】

- <株式、上場ETF、債券のリスク>株式や上場ETFの売買取引については、株価の変動により投資元本を割り込むことがあります。債券は金利水準の変動等により価格が上下し、損失が生じるおそれがあります。外国株式、外国債券及び外貨建て資産に投資する上場ETFは、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により投資元本を割り込むことがあります。
- <為替リスク>外貨建て商品の場合、外貨建てでは投資元本を割り込んでいない場合でも、為替変動あるいは外貨交換の際の為替スプレッドにより、円換算ベースで投資元本を割り込み損失を被る場合があります。
- <上場リートのリスク>リートは、不動産などで運用を行う上場投資法人です。リート市場価格については、金融経済動向、不動産市況、災害(地震、火災等)等の影響を受け変動し損失が生じるおそれがあります。分配金は不動産などからの収入に応じ変動します。金融商品取引所が定める基準に抵触し上場廃止になった場合には、取引が著しく困難になる可能性があります。
- <ファンドのリスク>ファンドは、主に国内外の株式、債券、不動産投資信託証券など値動きのある有価証券等(外貨建て資産には為替リスクもあります)に投資しますので基準価額は大きく変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。また、「毎月分配型」及び「通貨選択型」ファンドの「収益分配金に関する留意事項」及び「通貨選択型投資信託の収益イメージ」は、必ずご確認ください重要な事項となっておりますので、投資信託説明書(交付目論見書)をよくお読みください。



商号等 ひろぎん証券株式会社  
加入協会 金融商品取引業者中国財務局長(金商)第20号  
日本証券業協会

(帳票J-10-002 企画部2024年4月改正)

本店営業部	〒730-0031 広島市中区紙屋町1-3-8	TEL:082-245-5000	三次支店	〒728-0012 三次市十日市中2-13-26	TEL:0824-62-3121
今治営業所	〒794-0022 今治市室屋町1-1-13	TEL:0898-55-8280	可部支店	〒731-0221 広島市安佐北区可部3-20-21	TEL:082-815-2600
福山支店	〒720-0812 福山市霞町1-1-1	TEL:084-922-1321	広島西支店	〒733-0841 広島市西区井口明神1-17-4	TEL:082-277-2700
岡山営業所	〒700-0826 岡山市北区磨屋町1-3	TEL:086-222-1561	東広島支店	〒739-0014 東広島市西条昭和田2-7	TEL:082-422-3621
府中支店	〒726-0004 府中市府川町335-1	TEL:0847-45-8500	廿日市支店	〒738-0024 廿日市市新宮1-9-34	TEL:0829-31-6611
尾道支店	〒722-0035 尾道市土堂2-7-11	TEL:0848-23-8121	岩国支店	〒740-0018 岩国市麻里布町2-7-7	TEL:0827-22-3161
因島支店	〒722-2323 広島県尾道市因島土生町2017-3	TEL:0845-22-2291	徳山支店	〒745-0034 周南市御幸通2-15	TEL:0834-31-5350
竹原支店	〒725-0026 竹原市中央5-5-5	TEL:0846-22-2295	宇部支店	〒755-0029 宇部市新天町2-3-3 ポスティビル3階	TEL:0836-31-1105
三原支店	〒723-0014 三原市城町1-25-1	TEL:0848-67-6681	萩支店	〒758-0027 萩市吉田町51-11	TEL:0838-25-2121
呉支店	〒737-0045 呉市本通3-5-4	TEL:0823-21-6401			

ネットセンター(インターネット取引) <https://www.hirogin-sec.co.jp>  
コールセンター(コール取引) フリーアクセス:0120-506-084